

介護等体験を終了した学生の感想

Bさん

今回の教育福祉実習Ⅰにおける、特別支援学校と社会福祉施設への介護等体験を終えて、全体を通じて感じた事というのは、本当に良い経験をさせていただいたという事です。正直、介護等体験を行う前の事前指導の段階では、「どうして、こういう事が教員免許の取得に必要なのだろう。」と思っていたが、介護等体験を進めていく中で、その答えが徐々に見つかってきました。将来、教師になると、色々な人と接していく必要があります。普通の生徒だけではありません。体に障害を持った生徒との関わり方や、生徒だけではなく、保護者、そして地域の幅広い年代の方々と上手く接していくためにも、今回の介護等体験は、非常に貴重な体験となりました。

最初に行った社会福祉施設では、同じ利用者の方々でも、70歳ぐらいの方から100歳を超えている方もいて、年齢層が広いというのが第一印象でした。初めの方は緊張して、自分から話しかけるのに戸惑ったりしていましたが、利用者の方々から気軽に声をかけていただき、緊張もほぐれました。また、食事介助やオムツ交換など、自分が今までしっかりと経験した事なかった介護をさせてもらって感じた事というのは、正直辛い仕事だけでも、こういう仕事というのは、人から感謝される仕事でもあるし、また直接的に感謝の言葉を貰う事によって、仕事に対するやりがいというものが見つかってくるのかなと思いました。しかし、その事がある職員の方に話すと「感謝される事にやりがいを持つのは良いけど、その感謝を自分から求めてはいけません。」と言われました。確かにそうだと思います。これは、教師になるにあたって少し重なる部分があると思います。「良い先生に思われたい！」と思いながらやっても、なかなか難しいと思います。「どうすれば生徒に好かれる先生になるか。」ではなく、「どうすれば生徒の将来に役立つ教育が出来るか。」という教育を目指していきたいと思いました。

次に、特別支援学校(盲学校)では、全ての廊下に点字ブロックと手すりがついており、他にも今までに訪れた事のある学校にはない、本当に生徒にとっての良い環境が整っていました。また、生徒の中には若い方ばかりではなく、60歳近い方もいて、様々な世代の人達が心地よく学んでいる事に感心しました。そして、一番の驚きが、生徒だけではなく先生の中にも目の不自由な方、中には全盲の方もいた事です。この件に関しては、触れてはいけないと少し思ったので、質疑応答の時に口に出来なかったのですが、しっかり理由を聞いておけば良かったと、今になって後悔しています。ただ、理由として考えられる事というのは、”教える側”と”教わる側”の立場が同じだからこそ、心が通じる事が多いという点で、そういった事をしているのだと思いました。他にも、盲導犬についての学習やあんまマッサージについてなど、他では体験できない、様々な事を学ばせていただき、とても貴重な経験になりました。

今後、今回の介護等体験を、教職以外の場でも、必ず生かしていけるように頑張っていきたいです。